

萬寶極秘傳



15

1656



珍
日
月
星
火
土
金
木
水



Blank page with faint grid lines.

又學之山人著

不許賣買

日用
珍術

萬^{まん}葉^{はつ}極^く秘^ひ傳^{でん}
全



東都 神仙堂



41-11131

門 15
號 1658
卷

三ツノクスリ 永徳
朝山堂



一ケイノコ

百廿八

一ヤノヨウ

七十一

一ジノヨウ

三十二

一イノヨキ

二十

一ニノヨキ

二十

一エノヨキ

二十



此秘文の一切不浄除也

擗 招 擗 招

此文字ハ細難矣邪除の
守あり清浄に去れ

蕪民將來子孫門

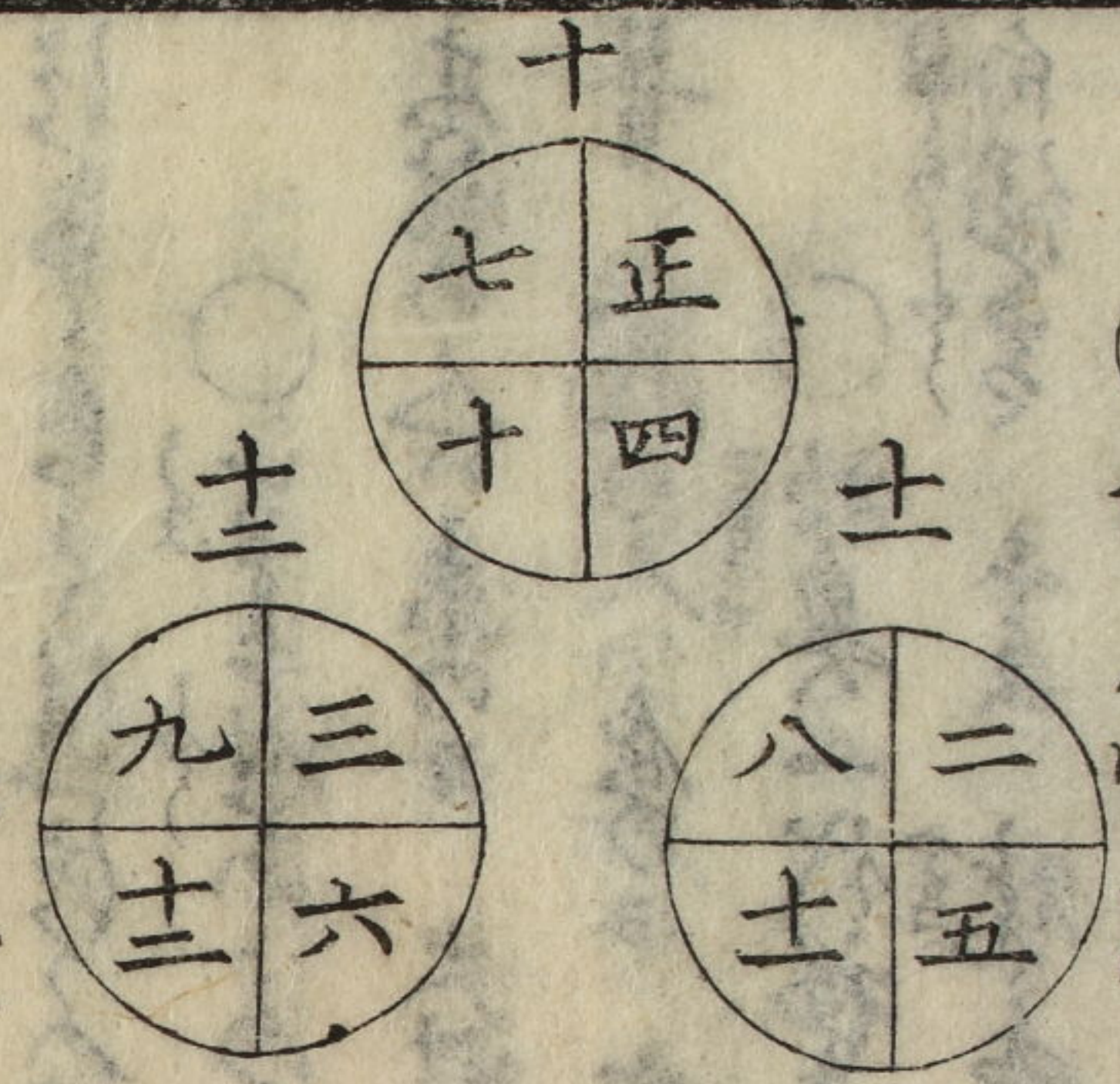
此文字ハ晴明秘傳ナリ板ノ
門足澤無一

萬寶極秘傳

全

神仙堂

○婦人懐胎月を知る法



たしむる女の年十八身より上の丸
と十とさきある右の丸と土左の丸を
十二まで上と十とと決すふかどめ是期
たの丸

三	六
九	十

 此は十月十八の女とま
三月かりりづれぬかのおとくと
まづべし

○人々高貴の相性の法

土性の人を大あき候すのり食物ふし
金性の人を大あき候すのり土あき候すのり物まひて
火性の人を大あき候すのり火あき候すのり
水性の人を大あき候すのり水あき候すのり

土性の人を大あき候すのり食物ふし
金性の人を大あき候すのり土あき候すのり物まひて
火性の人を大あき候すのり火あき候すのり
水性の人を大あき候すのり水あき候すのり

○男女ともいんト信むべき月日の法

毎月晦日 極月朔日 庚申 八尋 甲子 乙未の日
毎月十二日 日曜 月曜 正月七月 十月の十二日

是ととえとのり又毎月廿八日より日けりんト信む
孫のべし 誕生日 氏神まつり日

父母の忌日 右の月日よくしるべし

○鏡子違ふらり成落しぬの法

鏡アガタのうへにうぐいすの皮を貼るにまぶすに二三日のよやくすまひ
かろしうとふ一厚紙をかきせしむおあけくせびねをさつけ
あごととぎしんの中うににらきしうふなるあり

○ま糸の陰毛の中まぶす法

毛けをうみめてまみんごまかゆくしてまのびがたぬるあり

桃仁とうん 但たつ一錢せんのむづー是をのりれどくにまう紙をじ

て陰毛の内まぶ一敷くぬづーかあさうりやまをさ

あまきり

○ちにわらう虫皮たむ法

巴豆たつ葉をにありはきくぞんまらう抹ままにまぜ丸まるたづー

まうまのうへにうぐいすの皮を貼るにまぶすに二三日のよやくすまひ
かろしうとふ一厚紙をかきせしむおあけくせびねをさつけ
あごととぎしんの中うににらきしうふなるあり

○の發風とまぶ法

苦練花くしんげ 糸をあり は茶粉ちやくを一麻あの下に敷く

○の疔を消毒法ぢゆう延のびる茶酒ちやくの方 大明傳あり

極上焼酎ごくじやうせうちゆう 十六じゅうろく多たかをさねをまう

大白砂糖だいはくさとう 八はち多た 是をこ入いるかうかうとと二十日

まぶすに用ゆるし其あぢ香かをくてまう

徳公とくこうと安やすとち智ち成せいすすーかんかんをさううりり一い瓶びんをなり

ぞき年とし成せいのなづづの名酒なめしゆありありたにたにに列れつひひてて妙めうあり

○女中ちゆう討うじしるひる射あるまるいひの法ほ

たりれ手乃小ゆびゆぶぶがある右のれ人さうのゆびと中指さ
しのゆびとさへキマリキヤととべんとさる今年ねどし一つ日ひ
とさりマリモリソワカととさる一つ日ひ又また自ら陰いん門もんにあるさ
あるれがさちまちある後又またよりあるをあらすべし
あらすまじらひらがらまじの法ありあらすべし

○白あきなとあらする法

正月しち月に初はつ日に二月に初はつ日に三月に初はつ日に四月に初はつ日に五月に初はつ日に
六月に初はつ日に七月に初はつ日に八月に初はつ日に九月に初はつ日に
十月に初はつ日に十一月に初はつ日に十二月に初はつ日に

右の目めは考かへまり朝東あしのむらひと白あきなとあらする法

一まじらぬけバのしらぬ法

○蠟ろう燭そくのかがあらする法

らうそくかがらぬ小こ尺せきへ向ひ小刀かぬ船とりぬ字はな
登のんかけがらぬとさらぬとさらぬとさらぬとさらぬとさらぬ

○夜よ守まりとき炎のあらする法

丸たまごを夜守まりとき炎のあらする法
手ての内に我是われ鬼おにのことをあらす此事ことがあらすとあらすとあらす
ゆべ一つ日ひ自らあらすとあらすとあらすとあらすとあらすと

○大おほ酒しゅをあらする法

一教博ふ大酒一さうぶ人下下たにせんとももの^{きぶ}教の
中所の切かぶにあさなをくえんが^ああよぬまてあるは
流ゆか紙ぬくむしとりけいあさちゅうせいの汁の
中めても考^{あめ}おなとの中しるつともちむり入一七日と答
えむべーだちまち海きうひみかり下戸とゆるあり
是^{これ}殊の^ひ秘事なり

○暦とてんく^ま毎^ま年の^し吉^し凶^しの^し事^しと^し知^しる^し法

又甲うこつある^こ教日^の四月^のは^のき^のる^の年^のは^の大^の風^の吹^のあり
火^の六^のとりの^の丙^の丁^のの^の教^の日^の六月^のつ^のげ^のが^のは^の年^の海^のの^の屋^の
の^の石^のを^の起^のる^のみ^のむ^のど^の日^ので^のり^のす^のる^のあり^の癸^の土^のの^の教^の日^の六月^の
つ^のげ^のが^のあ^のめ^の船^のは^のは^のる^のむ^のど^の大^のあ^のむ^のる^の戊^の巳^のの^の教^の日^の多^の
く^のつ^のげ^のが^の人^の多^のく^の日^のつ^のら^のめ^の庚^の辛^のの^の教^の日^の多^のく^のつ^のげ^のが
は^の海^のわ^のる^のひ^のけ^のん^のと^の日^のを^のあ^のる^のと^の知^のる^のべ^のー

毎月朔日の十二支^の法^を知^る法

は^の法^のめ^のく^の年^の中^のの^の十二^の支^のと^のそ^のう^のに^のあ^のる^のあり^の正月^の也^のも^の二月^の
も^のて^のも^の先^のの^の月^の教^の日^のさ^のく^のあ^のま^のは^のその^の次^のの^の月^のハ^の何^のも^の月^のも^のて^のも
月^のの^の大^の小^のと^のゆ^のく^の毎^の月^の教^の日^のの^の十二^の支^の知^るあり^のた^のと^のが

正月大朔日寅の日あつて寅卯辰巳午未申と七つめふ
 あつりうゑに二月朔日の中とあつて一又正月ふたつめ
 六つめあつり二月朔日の未なりとあつて一法ひにえ
 ろふ小六大七とあつて一大小えくぬまは年中の
 十二支みまへくそうにあつて一

酒のせこくくちこくくちこくくちこくくちこくくちこくくち

は法に酒の中りぢか持びーやの去めと入りのまよまよが車よ持つと

はかきまぐくの秘文つはなはは後編よ進んで

中のまよまよとまよまよ

あつりうゑに二月朔日の中とあつて一又正月ふたつめ六つめあつり二月朔日の未なりとあつて一法ひにえろふ小六大七とあつて一大小えくぬまは年中の十二支みまへくそうにあつて一酒のせこくくちこくくちこくくちこくくちこくくちこくくち

